

平成27年度「宮本武之輔を偲び顕彰する会」活動報告

事務局長 石丸敬三

「宮本武之輔を偲び顕彰する会」は、平成18年に設立し、土木黎明期において活躍した、土木技術者「宮本武之輔」の功績や生き方を、多くの人々に知ってもらうため、各種の顕彰活動を行っており

- 人物像や功績を知るために「宮本武之輔」が残した日記等の音読や興居島での調査
- 広報活動としての講演会・シンポジュームの開催
- 信濃川大河津分水可動堰の現地視察
- 功績の地である新潟燕市や民間団体との交流
- 顕彰活動及び地元のシンボルとなる銅像設立及び顕彰碑清掃活動
- 情報発信の柱となるホームページの開設や会創立5周年記念誌の作成などに取り組んでまいりました。

平成27年度は、これまでの活動が大きく実を結んだ年となり、通常活動の例会に加え規模の大きな事業や講演会等開催いたしました。

【宮本武之輔交流事業】

平成27年4月14日と15日には、松山市と共催で「宮本武之輔交流事業」を開催し、土木偉人 宮本武之輔を介した生誕の地松山市と功績の地である新潟県燕市の交流を大きく促進いたしました。

交流事業には、野志松山市長、鈴木燕市長をはじめ、国土交通省や愛媛県関係者など数多くの来賓をお迎えし、また、燕市からは大河津資料館友の会の方々もご参加いただき、東京大学名誉教授の高橋裕先生の記念講演には、約300名の聴講者の参加があり、宮本武之輔の功績や人柄について講演がありました。

翌日には、交流事業の関係者全員と地元興居島の住民代表者をはじめ約50名の参加により生誕地碑の除幕を執り行い、交流事業は成功裡に終了しました。

(平成27年4月14日)

- 交流記念式典 松山市長、燕市長等挨拶
- 映画上映 民衆のために生きた土木技術者たち
- 記念講演 東京大学名誉教授 高橋裕氏
「松山の土木偉人 宮本武之輔 燕市大河津での偉業」
- パネルディスカッション

「災害につよい川づくりについて」

(平成27年4月15日)

○生誕地碑除幕式典

- ・生誕碑、銅像等の説明
- ・松山市長、燕市長挨拶
- ・生誕地碑除幕（児童、生徒）
- ・生徒の作文披露（郷土の偉人）
- ・展示資料の贈呈（小中学校）

【興居島の由良地区文化祭での講演会】

平成27年11月3日の銅像と顕彰碑のある地元文化祭には、地域の代表者を含む200名が参加されており、事務局長から「宮本武之輔の功績を通じた新潟県燕市との交流」と題し講演を聴いていただきました。

司会者からの宮本武之輔を知っているかとの質問に、ほぼ全員手を上げられたのを見て、10年前のほとんど誰も知らなかった頃を思い出し、会の活動成果を実感いたしました。

【平成27年コミュニティーカレッジでの講演会】

平成27年11月15日の愛媛県生涯学習センターでの講演会には、歴史に興味のある方々約30名が参加され、事務局長から「情熱の工人 宮本武之輔」と題し講演を聴いていただきました。

【宮本武之輔顕彰碑の清掃活動】

平成28年1月9日の清掃活動には、会員8名が参加し、約1時間をかけ銅像及び顕彰碑周辺の植栽の剪定等を実施しました。

また、平成27年5月には、愛媛県生涯学習センターの愛媛人物博物館において、23名の追加展示の候補に選ばれた宮本武之輔が常時展示されました。

当会においても、説明内容や展示資料の提供を行っており、常設展示については大変うれしく思っております。

最後に、当会は「四国の川を考える会」に御支援を頂きながら、これまで活動を続けてまいりました。今後も、信濃川大河津分水路可動堰建設事業をはじめとする宮本武之輔の数々の功績を広めることにより、第二・第三の土木偉人が育つよう、会員一同力を合わせ、着実に活動を広げていくこととしております。

「宮本武之輔を偲び顕彰する会」ホームページ
<http://miyamoto-takenosuke.biz/>

みやもと たけ の すけ
松山の土木偉人 宮本武之輔交流事業

宮本武之輔の功績を通じた
 ～「愛媛県松山市」と「新潟県燕市」の交流促進に向けて～

平成27年4月14日(火) 交流記念講演会 【松山市役所11階大会議室】

- ◆ 記念講演 高橋 裕 東京大学名誉教授
 2015年(第31回)日本国際賞(Japan Prize)受賞
 演題:松山の土木偉人 宮本武之輔 燕市大河津での偉業

- ◆ パネルディスカッション
 テーマ:災害につよい川づくりについて
 司会 鈴木 幸一 宮本武之輔交流事業実行委員会会長
 パネラー 国土交通省四国地方整備局河川部河川調査官 高橋政則
 愛媛県土木部河川港湾局河川課主幹 石丸敬三
 NPO法人大河津資料館友の会理事 樋口 勲



高橋 裕 東京大学名誉教授



約300名の参加者



左から
 鈴木幸一 愛媛大学名誉教授
 野志克仁 松山市長
 高橋 裕 東京大学名誉教授
 鈴木 力 燕市市長
 衣笠 剛 ヤクルト球団社長

平成27年4月15日(水) 生誕地碑除幕 【松山市役所興居島支所前】

- ◆ 松山市長、燕市市長挨拶
- ◆ 生誕地碑除幕(児童・生徒)
- ◆ 生徒の作文(郷土の偉人)披露



今後の交流促進に向けて
 野志克仁 松山市長
 鈴木 力 燕市市長
 による力強い握手



関係者による記念撮影

(頭 彰 碑)昭和29年5月 全日本建設技術協会建立
 (銅 像)平成25年1月5日 宮本武之輔を偲び顕彰する会建立
 (生誕地碑)平成27年4月15日 宮本武之輔を偲び顕彰する会建立



興居島小学校児童
 興居島中学校生徒
 による生誕地碑除幕



興居島中学校生徒
 による作文披露

興居島の由良地区文化祭での講演会 (平成27年11月3日 旧由良小学校)

演題: 宮本武之輔の功績を通じた新潟県燕市との交流
講演者: 宮本武之輔を偲び顕彰する会事務局長 石丸敬三
参加者: 地域の代表者を含む約200名
感想: 地元での知名度が高まってきたことを実感した。



平成27年 コミュニティー カレッジでの講演会
(平成27年11月15日 愛媛県生涯学習センター)

演題:情熱の工人 宮本武之輔

講演者:宮本武之輔を偲び顕彰する会事務局長 石丸敬三

参加者:講座の受講者約30名

感想:歴史に興味のある方が参加されており、熱心に聴いて頂いた。



宮本武之輔顕彰碑の清掃活動 (平成28年1月9日 興居島由良)

作業時間: 1時間15分

参加者: 8名

感想: 思った以上に周りの植栽が伸びており、予定時間を大幅に超えての作業となったが、きれいになった顕彰碑を見て大満足でした。



宮本武之輔の経歴

宮本武之輔は、明治25年興居島に生まれ、小学校の頃、父親が事業に失敗し、全財産を失い中学校に進学できず、瀬戸内海航路の貨客船のボーイとなって家計を助けるなど、不遇な幼年期を過ごしました。

その後、興居島の篤志家宮田兵吉の援助を受け勉学の道に戻り、私立錦城中学校に編入学、異父兄窪内石太郎の影響を受け工科のコースを歩む決心をし、第一高等学校を無試験入学、東京帝国大学土木工学科を主席（恩賜の銀時計組）で卒業後、大正6年内務省に入省し、利根川、荒川の大規模河川改修を手掛け、荒川では、「小名木川閘門」の設計施工を担当し、大正12年から大正14年の1年半、鉄筋コンクリート構造物の研究のため、欧米諸国（フランス、ドイツ、イギリス、アメリカ）を歴訪しています。

昭和2年の新潟県信濃川大河津自在堰陥没事故では、信濃川が干上がり農業用水が枯渇する事態となり、内務省の威信をかけた新たな可動堰の建設においては、36歳で陣頭指揮をとり、出水や風雪、風土病と戦いながら、わずか4年後の昭和6年に完成させ、越後平野を洪水から守り、民衆のために尽しています。

また、コンクリート工学博士となり、「鉄筋コンクリート」「治水工学」等を執筆、昭和12年に東京帝国大学教授（河川工学）を兼任し技術者の育成に力を注ぐ一方、日本工人倶楽部発足など、技術者の地位向上の運動を展開するとともに、科学技術の体制づくりのため、科学技術庁の設立に取り組んでいます。

昭和15年に内務省土木局から、内閣直属の中国占領地域に対する最高行政機関であった興亜院の技術部長に抜擢され、昭和16年には国の最高政策立案機関であった企画院の次長（官僚のトップ）に就任し、昭和16年12月24日、東京で悪性肺炎のため急逝（享年49歳）。